

バーヴァンジンと  
いろいろえっち本



ADULTS ONLY  
**R18**  
成人向け

バーヴァンジン<sup>ツ</sup>ジ<sup>ツ</sup>と  
いろいろえっち本





※ATTENTION※

この漫画ではメスガキ的ムーブなバーヴァン・シーではなく、

絆15くらい甘々デレデレです…!

そして、セリフ上での彼女の呼称を「バーヴァンシー」という風に

「・」を抜いて表記します…!

これらを踏まえたうえで見ていただければ幸いです…!

なあ… 私としては

フキ

血が吸えるのは願ったりなんだけどさ…

別に血を吸わないと死ぬわけでもねーんだし

「定期的に」じゃなくても良くない？

私が吸いたくなった時に吸いたいんだけど？

「でもパーヴァンシーさ前みたいに迷惑掛けないように我慢して体調崩すかもしれないでしょ？」

べっ！別にそんな風に考えてたわけじゃねーし…！

そ、それにカルデアに呼ばれた状態での勝手が分かってなかっただけで…！

「それに…」

「さすがに、丸一日、寝込まれたらマスター心配ですよ…！」

あゝ…分かった分かりましたッ！

ちゅ

ポーンッ



「いやほんと  
すいませんッ」



「それミどうか  
なんねえのツ...?」



あー...クソザコだけど  
「人類最後のマスター」様だもんな  
過保護なこって...

くくりました♡  
00

私が  
「副作用もあるかもだから、メデイカルチェ  
ック受けてね」とも言われたから...」  
「吸血行為の際に、魅了、等がある程度  
レジストする薬を用意したから、飲んでお  
いてね」って言われて飲んだ薬が原因  
かも...?」

「まあ、メデイカルチェック  
行く前にも又いて  
いこうかなーなんて

そ、それさあ…!

私が又イたげよつか…?

「へっ!?  
い、いやシテ  
いただけたら  
嬉しいなーとは  
思いますけど…」

「ウオデツツツ  
ツツツカ…」

「じゃな〜てツツ」

「ちょッ  
バーヴァンシーさんツツ?」

「飲み込まれるッ」

「うお圧がすごい」

んしょ

たふ

オィ

ほれ、いいから

うっか

「ええ…自分からシテおいて…?」

オラッ…で、こっから  
動かせばいいわけ?

「じゃ、じゃあそのままでも  
良すぎるくらいなんだけど…」

む

に

ゆー



「うおツ  
あつたか……」



「唾液で滑りを  
良くしてもらえると」

ん……

くちゅい

くちゅい



「うおツ……！  
ヤバ……ッ！」

ほ、ほらほらどーお？  
って聞かなくても  
分かり切ってるなあ？

なっさけねえツラして  
鳴いているもんなあ♪

「ういふッ……ら、ら、ちや  
おしじやる通りですッ……」

たほい  
たほい

たほい  
たほい



…こいつの  
結構デカいな

たはぽ

はぽ

「あ、先っぽ唾えて  
いただけると」

お前結構  
余裕あんな…!?

「おおウツ  
結構激しッ！」

「ッ…  
あ…」

「めっちゃ気持ちいい」

「精子ッ  
昇ってきたッ…!」

「射精るッ」



「うあ…ッ  
搾り取られる…!」

「…ッ」

「あ…  
めっちゃ出た…」

「ふう…あ、ありがと  
パーヴァンシー…  
スゲー気持ち良か  
あのみ」

「は、はい…」

「次ん時も、スる？」

「え、あつじや  
じゃあ…  
お願いします…」

次の定期吸血日…?



相変わらず…



ザコい割りに

わお

大層ッ  
ご立派だよなあ

「ぬっふッ…  
えへへ…」  
「せ」

いや別に褒めて  
ねえんだわ…

ほらほら♡  
余裕ぶっこいてるけど

ミこっちは無様に  
ビクついてんぞ♡



「そッ、そりやそんな  
ドスケベ靈衣で  
足コキされればビク  
つきもしますよッ」



はっ♡  
わざわざ用意してやった  
んだから感謝しろよ♡

「いや結構ノリノリ  
で用意したよね♡  
うっせ

オラオラッ♡  
もっとならいて無様晒せ♡



イキそうなんだろ？  
ほくらイケ♡イケ♡

「くあッ…  
パーヴァンシーツ…」



「イクッ…  
射精るッ…！」

あはッ♡  
出しすぎだろ♡  
足孕ませる気かよ♡

「大変気持ち  
良かったですッ」

おーおーせいせい  
感謝しろ♡



んだよこの服：  
ほほ裸じゃねーか

「ど文句をたれつつも着てくれて  
ホントにちよろ：優しいよねッ」  
※頼み込んだら着てくれた

おい今「ちよろい」  
って言ったろよ

…で？

今日はどうヌいて  
欲しいわけ？

「いやあ、実はこつちばかり  
気持ちよくなつてて悪いな  
って思つておりましたねッ」

は？

「今回はパーヴァンシーにも  
気持ちよくなつてもらおう  
かなって」

うわちよッ  
ウザ、キモ  
近寄んツ

た  
ぶ  
いん

ぶりッ

むっ  
むっ

むっ  
むっ



「んちゅ…だいぶ濃い  
匂いになってきたな」



「めぢゃゃくぢゃ  
ヒロゴ…」

「にしても凄い  
感じてて…」





「んん」

「おっ！  
おっ！」

「もっと  
感じさせて…」

はあ…♡はあ…♡  
もういいだろ…♡

さっさとお前の唯一で  
取り柄の、それ…

挿入ろよん

はあ…♡

「んん…  
それって？」  
その無駄にたくましい  
ペニス挿入れるって  
言ってるんだッ…

「んん？  
それって？」

ま、  
「及第点かなッ！  
っと！」

「個人的には  
「おちんちんとか  
の方がイイかなッ  
なんてッ」

「にしても結構  
濡らしたから…」

「へっ…  
すっ…  
吸いっ…」

「バーヴァンシーも  
トロ顔キメてて  
エロッ…」

「うおッ  
ガッシリ  
ホールドッ！」

「吸血だけじゃ  
飽き足らず  
吸精までッ…」





「どんどん絡み  
ついてくるッ」

「ミ血を奪う吸血妖精ミって  
言うよりッ……」

「吸精妖精ミだろッ」



「ん？」

「マスター……♡」



「膣内も  
キュウキュウ  
締まって……ッ」

「一滴も逃がさない  
って感じたッ……」



「可愛いなッ  
この吸精妖精ッ」



「クツツツツツツツ」



「ツツツツツツン」



「ツッ…  
ああツッもうツッ  
可愛いなあ  
バーヴァンシート」

キヤ♡

マスターア…♡  
もじとお…♡

あう♡  
好き♡…♡



「ツ…更に膣内<sup>ナハ</sup>がうねって  
気持ちいいツッ…!」

「ほりッこれでもっと  
奥まで届くでしょッ」



「気持ち良すぎてッ…  
腰止まないッ…！」

「ッ…！  
バーヴアンシー…ッ…！  
イキそうッ…！」

「アホ  
ド  
膣内に射精すよッッ！」



「射<sup>で</sup>精<sup>じ</sup>るツ  
ツツ…！」

「くあッ…！  
搾り取られる…ッ」

「ふ…  
めっちゃ出した〜…！」

マスター…♡

「は、はい？」

「あ、こりやスイツチ  
入ってるヤツだ…」

「あッ！  
じゃあさ…」

もっと…♡  
シヨ―ゼ♡

うーわっ…♡

こんな服も用意してたとか  
キモすぎるんですけど♡

「うるせえッ！」

「結局ノリノリで  
着てんじやねえかッ！」

「すんごい膣内  
絡んでくるッ」

「ほーらパーヴァンシーの  
膣内が  
美味しい美味し♡」

「って吸いついて  
きてるよッ」

うーわっ  
ひゃっ…♡



「あ〜…」  
「…ミミのミミ」



「もうッ  
射精るッ…」



「おっ嬉しそう」

「パッ…」

「ふ、ふん…」

「…ッオラ  
どうせまだ  
あんだろ？」

「次はヒイヒイ鳴かせて  
やつから次の服寄こ」

「やっぱ  
ノリノリじゃん」

「うっせえッ  
早よ寄こせ  
つってんだよッ！」



「はあ…ッ  
興奮しすぎたろ  
お前え…」

「そろそろ  
パーウアンシーに  
着てもらうために  
用意したからねッ」



これまた趣味の  
ワライ服♡

こんなん誰が  
着るんだっつーの

「いやノリノリ  
で着てるのが  
目の前に」

オラさっさと  
ちんぽ出せ

ふっ♡ふっ♡  
ほらほらあ♡  
さっきの  
余裕は  
どーしたよ♡

「くおツ...!  
惱殺パニーの  
びよんびよん  
ピストンツ...」

「激しいッ...!  
けどたまらんツ」

「流石ツ...説明せずとも  
尻尾プラグも付けて  
くれた淫乱パニー...!」

あ、あんな  
付ける場所そこ  
しかねーだろうッ...!

(もしや弄つたり  
するのでは...)

「ツ...と、ともあれ  
腸壁越しにプラグの  
ゴツゴツで刺激されてッ...」



「射精るッ！」

ほっ♡  
こんだけ出したら  
いくら  
サーヴァントでもあ

孕んじまうんじゃねーか  
ってくらいだなあ…♡

「流石にもう  
出し切った…ッ」



「は、はい  
パーヴァンシーさん！  
お服脱ぎ脱ぎ  
しましょうねー！」

「…な、なんか酔ってる？  
魔力酔い…みたいな…？」



「あ、あれ？  
パーヴァンシーさん？」

んうッ♡あぁッ♡…♡  
マスターのがあふれて  
もったいねえー…♡





「すっ…い遅れ  
散らかしましたねえ」



「いやあ…」

チヤ...

カ



「パーヴァンシーさん」

うっせ黙れクス

死ねゴミカス

消えろザコ

Gon Zou Bara

「罵詈雑言チエインツ」

「ていうか恥ずかし  
がつてるけど後半  
ノリノリで腰砕けて」

フェッチ・フェイル…  
『痛幻の哭…』

「宝具はやめてッ」

「あ、ごめん  
ダヴィンチちゃんからだ」



「はい、あやっへ  
メテイカガチエック…」

まあ私もなんだがんだ  
こいつに縛られてるし…

なあ♡

「は、はい？」



好きよ  
ザコマスター♡



それに

「こーゆーの」もワルか  
ねーかな…なんて♡

「え、なに？」「ん、なに？」「ん、なに？」「ん、なに？」

「あ、うん  
ザコはいらないかな」

はッ♡

事実なんだから  
しゃーねーだろクーズ♡

「あーはいはい  
これからメデイカル  
チェック行くから」

「つてちよわッ」  
トサッ

「ゆっくりしてて  
いーんだろ♡」

「どうせ今行ったって後で行った  
って変わんねーんだし♡」

再戦すっぞ♡

さ♡

せ♡

い♡

ん♡

「ちよッ待ッ」

Pi

…ま  
仲が良くてなにより

フッ

かな♪



## ～あとがき～

この度は「バーヴァン・シーといろいろえっち本」をお手に取っていただき、大変ありがとうございましたッ！

今回のバーヴァンシー本は、元々FANBOX用にカラー漫画を制作していたのですが、途中で「あッ、これ…本にしたい…！」って突発的に思って、本として制作するほうにシフトチェンジしました…！(FANBOXの方で待っていた方がいたら申し訳ないです…！)

おっばい、ブルブルンッさせました。描いてて楽しかったです(ほっこり)  
想像以上に頭の中のバーヴァンシーが甘々デレデレ、ぐだ男と絡ませるとツッコミになったりと描いてて飽きないキャラ(になった)でした。

反省点として、「おっばいでっかく描きたい！」って思いが強すぎて、後々オノマトペやセリフを入れる事を考えずに作画してしまったので、画面がいっぱいおっばいになってしまった点がありますね…素直に反省です。

後は、まだまだ体位や画面構成、モノクロ色の塗り方やオノマトペの描き方や間の取り方等、いろいろ先達の方々のものを参考に自分なりに描いてはいるのですが、上手く描けているとは言い難いので、何はともあれ描き続けて精進あるのみって感じですッ…！

まーた長々文章打ってました、まあとにかくメリュ子本とは違った方面で、この本をお手に取ってくれた方々に刺されば幸いですッ！

重ねて、この本をお手に取っていただきありがとうございましたッ！  
またクオリティをアップさせてお会い出来たらなと思います！では！！

ちなみにBari・Zou・Gon(罵詈雑言)のコマンドマークは、「ゲームのモノをそのまま使うのはあかんからな…」って思って自作しました。



モチーフはアーチャー(主に弓)と、バーヴァンシー(第一再臨)の髪飾り、後はフェイルノートっぽくイメージして作ったりしてます。

—奥付—

誌名：バーヴァン・シーといろいろえっち本

発行日：2022年6月12日(サンシャインクリエイション2022Summer)

サークル：わとちっぶめるんぱん

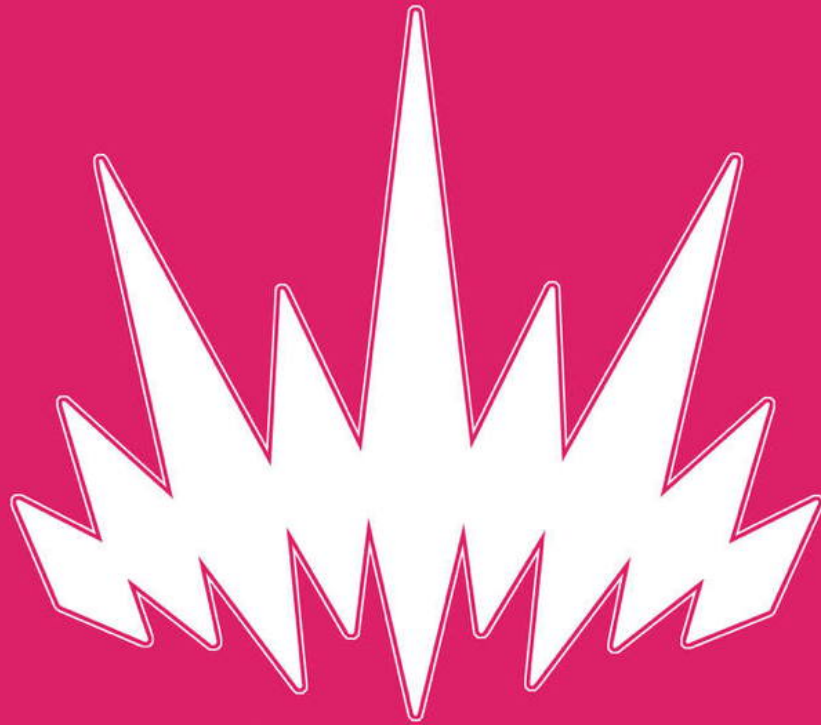
発行者：わとす

印刷会社：PICO(プリンティングイン株式会社)様  
pixivFACTRY BOOKS 様

連絡先 E-mail：watosu.watosu@gmail.com

Pixiv ID：37774114

Twitter：watosu\_mama



Fate/Grand Order FanBook